

朋翠会

# 環境教育

# 2016 REPORT

Vol.5

卒業生と在校生の架け橋

時代の潮流「環境教育学科」！貴方の出番です、

環境女子！ ①

板橋環境討論会 ②

緑苑祭 ③

ボランティア活動 ④

1年生春の研修会 2年生フィールドワーク ⑤

先輩インタビュー ⑥

在校生の活躍 ⑦

朋翠会の活動紹介 ⑧

時代の潮流「環境教育学科」！貴方の出番です、環境女子！



本学大学院 環境教育学科非常勤講師  
株エフシージー総合研究所

川上裕司  
環境科学研究所 室長  
かわかみ ゆうじ

今の日本は、20年以上続いた経済不況から何とか脱却しようと思死にもがき苦しんでいると言っても過言ではないでしょう。日本は「デフレ」という戦後初めての深刻な経済状況を経験しました。「デフレの罠」に陥った経済は、そこから簡単に抜け出すことが難しく、国民も企業もデフレマインドにとどまりと浸かり、消費や投資を回復させることが難しいのが最大要因です。このような社会的背景から景気回復の一因となる企業投資家の目線は「ESGの投資」に向かっています。

ESGとは「Environmental(環境)・Social(社会)・Governance(企業統治)・ガバナンス」を指します。

企業が利益ばかりを最優先に考えるのではなく、ESGに係わる課題を十分理解した上で、社内の業務として具体的かつ適切に取り入れること。そして、ESGを具体的に実践していることを適切に評価して、株主が投資することが力ギになります。この構図が大きな潮流になれば、地球環境問題や労働・育児などの社会的な課題の解決や改善を促進することになります。更に、資本市場の健全な育成や発展につながる、経済回復と持続可能な社会の形成に寄与すると考えられています。従来の株式投資では、「その企業の利益が上がっているのかどうか」という財務の観点だけを評価基準として投資を行っていました。しかしながら、利益至上主義がもたらした悪影響は枚挙にいとまがありません。深刻な事態を迎えている地球温暖化問題(気候変動)は、「自然への畏敬の念を失い、経済発展のためと称して、傍若無人に破壊を繰り返してきた人類に対して、母なる大地が怒り始めた兆候」だと思えます。

環境問題の改善は、もはやきれいごとでは済まされない時点にきています。人類が生き残っていくために、ESGを理解し、本気で実践する企業を軸とした経済システムへの移行が急務であることは間違いないでしょう。

ESGの投資では、企業の環境問題への具体的な取り組みに加えて、株主、顧客、従業員、地域社会などの利害関係者に対して、CSR(Corporate Social Responsibility)・企業の社会的責任を果たしているかどうかをチェックすることが投資の力ギになります。そして、ESGを取り入れようとしている企業にとって、「環境教育学」を学んだ学生は正に欲しい人材に違いありません。日本は、環境改善技術力は世界トップレベルですが、企業のESGへの取り組みや女性活用については世界最低レベル。ダボス会議が公表した女性の活躍度合いを示すジェンダーギャップ指数は、135か国中日本は101位という水準です。だからこそ、貴方の出番が待ち望まれている」と、私は期待しています。「環境教育学科」と「環境女子」は、「Tinkler」時代の潮流に乗っています。





# 平成27年度 In 板橋区役所 区民検討会議に参加しました。

板橋区では平成26年～27年度の2年間で環境施策の総合的かつ計画的な推進を図る「板橋区環境基本計画」(第三次)の策定を行います。

この計画の策定にあたり区民からの声を基に各主体の取り組みビジョンとなる「区民1人ひとりができること」を3日間に渡り話し合いが行われました。

第一回(4月28日)「地球温暖化対策・ごみと資源」第二回(5月12日)「自然のふれあい・生活環境の保全」第三回(5月26日)「環境教育・協働を進める環境保全活動」とテーマが別れています。参加者は4～5名の小グループに分かれ、その日のテーマについて、ひとりで行うこと・10人(集団)で行うこと・区全体で行うこと、規模ごとに分けて考え、議論していきます。最終日には全三回で出された意見を振り返り、自身が「これは実際にやってみよう」と思える取り組みを全体に発表します。グループワークも全体発表も、参加者全員が、何ができるのか・何をしたいのかを自由に発想、発言できる場となりました。老若男女問わず様々な板橋区民が参加しており、家政大学生はもちろん、環境教育学科から何名かの先生方も参加し、議論を行いました。私たち学生にとっては普段は聞けない、現在、社会に出て活躍している人の取り組みや、定年退職された方々の考え・感じていることを聞き取れる貴重な体験でした。全日ともに自分には無い他の参加者の発想を聞くことが楽しく、特に、いつも講義を受けるだけの立場の教授と目線をあわせて議論できたことが新鮮で、緊張もしましたが、私達にとって授業では決して経験できない有意義な時間となりました。

特に有意義だったテーマは最終日の「環境教育」についてです。私たち環境教育学科にとっては一番身近なワードですが、いざ実際に何をしているのか、今の私達に何が出来るのか、考えてみると、意外にできていることは少なく、歯がゆい思いもしました。しかし、区民の方々の知恵や発想を聞いて、将来の自分の環境教育指導の設計に役立つお話もあり、板橋区の環境に対する意識の高さを感じました。また、区民検討会議では板橋区の環境向上のためにできることを話し合うことにより現在、区が行っている環境推進活動を知る良い機会になり、家政大学として板橋区への地元愛も深まりました。



グループワークの様子



グループワークの個人意見



全体発表の個人意見

## 板橋区環境基本計画について教えてください。

板橋区環境基本計画とは「環境と共生する都市」を実現するために区民、事業者、区がそれぞれの立場から協力して環境問題に取り組むための計画です。平成11年に最初の板橋区環境基本計画(第一次)が策定され、平成21年に板橋区環境基本計画(第二次)が策定されました。現在(平成27年9月2日時点)は板橋区環境基本計画(第三次)が策定途中となっています。

## 板橋区環境基本計画(第三次)の策定にあたって、なぜ区民検討会議を開催したのですか。

環境基本計画は区民、事業者、区がそれぞれの役割を果たして、共に板橋区の環境に取り組んでいくものです。そして一緒に取り組むものであるからこそ一緒に作りましょうということが目的にあります。区役所だけで環境基本計画を作って行動するだけでは区民の方々へ何をしているのか伝わらず、協力を得ることが

できません。環境基本計画は税金をかけて作っていますし、環境問題に取り組むには広い範囲への協力が必ずです。区民検討会議は区民の方々の知らないことをお聞きして参考にするために開催しております。

## 区民検討会議で挙げられた意見から感じたことはありますか。

一番感じたことは二酸化炭素についての意見がほとんどなかったことです。これは二酸化炭素が目には見えないため、日常生活ではほとんど気にすることがないからだと思います。しかし見えなからだとはいけません。生活に影響を与えます。そういった目の行き届いていないところは役所が取り組んでいます。

## 最後に、学生が板橋区の環境のための協力できることはありますか。

板橋区に住んでいない方も様々な取り組みに参加していただきたくです。大学にはたくさんの方がいるので大勢が同じ行動を起こすということとは大きいと思います。そして環境に少しでも興味があり、自分の勉強の一つにしているのはありがたいことです。学んでいることを生かして何か一つでも良いので学生さんがみんなこういうことをやっていますよというのがあれば嬉しいです。

ですが大学生は学業やサークル活動が忙しいためにお時間がなく、お金も限られているため、なかなか行動を起こすのは難しいかもしれません。そういった場合は学生さんが集まって板橋区環境基本計画を読み、区に意見や疑問を投げかけて下さるだけでもありがたいです。また、私た

# 区役所の方へインタビュー



石坂 昇さん



紺谷 亮介さん



板橋区資源環境部 環境戦略担当課 環境政策グループ

板橋区環境基本計画(第三次)は板橋区のホームページから読むことができます。板橋区の環境について私たちの目線から考えてみませんか。

「どうもありがとうございました。」  
(取材担当/石川)



# 緑苑祭 (りょくえんさい)

## ① 学科シンポジウム

平成27年10月25日(日)に開催された緑苑祭にて、CSRについてというテーマで環境教育の学科シンポジウムがおこなわれました。講演者は、フジテレビの放送文化推進局CSR推進室部長木幡美子(こばたよしこ)さんです。

みなさんは“CSR”という言葉をご存知でしょうか。CSRとは企業が社会に対して責任を果たし、社会と共に発展していく活動です。利益はありませんが、本業を生かした活動を行い、社会貢献に力をいれることで、会社のネームバリューの向上につながります。木幡さんには自身が勤めるフジテレビで行われているCSR活動について講演をしていただきました。フジテレビが行っているCSRの活動種類は大きく分けて三つあるそうです。

①未来を担う子供たちのための活動。「あなせん」…小学生を対象とした、アナウンサーによる発声法や原稿の読み方について出前授業を行う。「ハロー!どっこくん」…食事・運動・排泄の大切さを伝えることを目的にしたオリジナルキャラクター。幼稚園や保育園へ行き、大型紙芝居やオリジナル体操で食育を行う。『「カナエール」の指導」…児童養護施設にいる子供たちのスピーチコンテストの指

導を行う。

②被災地の方々のための活動。「ずっとおうえん。プロジェクト」…みちのく合衆国の開催(お台場合衆国の売り上げで開催)や①の内容を被災地で定期的に行う。

③地球環境のための活動。「社内のペーパーレス」…紙を使わずタブレットなどの電子端末を使用して仕事を行うことで、資源の節約に。「地球環境大賞」…地球温暖化防止や環境保全活動に熱心に取り組んだ企業への授賞式を行う。「グリッター 8」…アウェアネスカラー(運動への支援・賛同を示す色)で社屋のライトアップを行う。LEDライトを使うので一時間あたり163.8円の電気供給量で済む。その他、清掃活動や植物植えなど多岐にわたる活動を行っている。

最後に木幡さんは、「みなさんが今学んでいることは、CSR活動のみに限らず企業に求められている要素。それを活用して社会に羽ばたいて欲しい。」とまとめました。

将来の就職先では、今私達が学んでいる環境教育で得られたことを生かし、企業と社会が円滑にまわるための潤滑油としてCSRを積極的に行っていくべきだと感じました。

## ② 学科企画実験

環境教育学科では、平成27年10月24日(土)、25日(日)に開催された第55回緑苑祭の学科企画として、4号館で環境に関連した生物の展示や、化学的な実験を行いました。

今年の学科企画は、実験を行う鑑識課と展示を行うサバイバル課に分かれ、鑑識課ではルミノール反応・触れる水・レジンの3つの実験、サバイバル課では西表島の写真展示・クイズ・昆虫食展示という内容でした。鑑識課の実験では、ヘモグロビンとルミノール反応で刑事ドラマの場面の再現し、そ

の後フルオルセインでサイリウム等に使われる黄色発光の再現、またローダミンは明太子等に使われる着色料だという事、実験内容を来場者の方に説明をしながら実験を行いました。触れる水はエコと関連付けて企画内容に取り入れしました。

会場には親子連れの姿が多く、2日間ともたくさんの方々に来場し、楽しんでいただくことができました。



▲レジンの実験



▲触れる水の実験



▲触れる水! とても不思議!



▲サバイバル課の西表島写真展



▲昆虫の展示



▲ルミノール反応の実験



# 意識できる すばらしさ。

平成27年6月27日(土)、28日(日)に板橋区グリーンホールにて、第14回環境なんでも見本市というイベントが行われ、ボランティアとして28日(日)にイベント運営のお手伝いをさせていただきました。

本イベントは第1回から、ボランティアの区民等が主体となっている「いたばしエコ活動推進協議会」が企画・運営しています。板橋区外で行われている様々な環境活動や、環境にやさしい暮らし方等の展示や報告会、またワークショップ等で紹介し、来場者に見学・体験していただくことで自分たちの暮らしを見直し、自分たちに何ができるのかを考えてもらうことを趣旨としたイベントです。

イベントで行われた内容は、環境活動に取り組む企業・団体・学校等が日頃の成果を紹介した「展示コーナー」、地球温暖化防止をテーマにした「アクション9クイズラリー」、また「子ども工作」や大人も子どもも参加できる体験型コーナーである「環境ワークショップ」、区民が考案・制作したカルタで遊びながら区内の史跡や自然環境などの特色を知ることができる「いたばし環境カルタ」、区内の小学生が時間内に角材で秘密基地を作り上げる「空間ワークショップ」、ゴーヤやヘチマなどを使用した「緑のカーテンおすすめレシピ紹介&試食会」、見ている人が参加することで進む手作り紙芝居である「エコライフ紙芝居」、板橋のいっぴんを販売する「板橋いっぴん販売」等です。

私は、「アクション9クイズラリー」の受付で、クイズラリーに答えてくれた来場者の方にお渡しするハーブティーやかき氷を作るお手伝いをしました。親子連れの姿が多く、たくさんの方々に来てくださいました。かき氷のカップもリユースカップを使用していたことや、すべての内容において環境について考えられていました。

ボランティアに参加させていただいて、環境活動のことが意識できる素晴らしいイベントであり、また様々な展示があるので幅広い年代の方に楽しんでいただくことができると感じました。来場された方々はこのイベントをきっかけに、日々の生活の中で環境のことを少しでも考えてもらえる良い機会になったと思います。

(担当/望月)





# 1年生 春の研修会



環境教育学科の学生たちは入学してすぐに神奈川県三浦市にある小網代の森へ行きました。もともと田んぼ等の湿地である小網代の森ですが、人々がその土地を放置していたために土壌の乾燥化が進み、豊富だった自然はすっかり荒れ果ててしまいました。そこで、神奈川県が小網代の土地を買収し、様々な団体の協力もあり常に手入れを行うことで、今の環境状態を維持しています。ゆえに森とは言っても人が歩きやすいようにある程度整備されています。

小網代の森の中には川の源流があり、海へつながっています。そこには多種多様な生物が生息しており、特にアカテガニが有名で、ガイドさんの説明や公式ホームページで紹介されています。また、私たちが訪れた4月はおたまたまじやくしが多く泳いでいました。

川の表面には油のようなものが浮いていました。ガイドさんの説明によると、それは油ではなく鉄分が分解されたもので、雨の日の水溜りに油が浮いているように見えるそうです。また、ところどころに水道管もありました。

植物に注目すると、花の種類はそれほど多くありませんでしたが、桜を見ることができました。また、木に巻きついているつる植物が多く



見られ、巻きつかれている木との相互作用によって、どちらか一方が生き延びることに成功したと見受けられる様子や、成長が止まり枯れている木に巻きついたまま成長している様子、その逆も多く見られました。

ガイドさんによると、私たちが訪れた4月も雨も降っていてまだコートを着ているくらい寒い日でしたが、花が咲いたり生き物が出てくるにはもう少し暖かい時期の、晴れている日のほうが生き物も多く観察できるそうです。また、夏になるとホタルを見ることができるようです。

小網代の森へ行った後は、三浦市にあるソレイユの丘へ移動して昼食を食べました。室内でバーベキューをし、各班で同級生や先生たちと交流し仲を深めることができました。

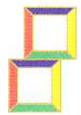
昼食の後は、三浦市の企業等による環境問題への取り組みについて話を聞きました。最近では環境問題に取り組み一般企業が増えており、メディアや旅行会社、飲食関係等のあまり関わりのない企業でも環境問題に取り組んでいると聞いて、重要性を再確認できたと同時に、私たちの就職場所の選択肢も広がっていると思いました。

今回のプログラムを通して、環境問題は国やその土地だけが解決に取り組んでいるのではなく、様々な企業やボランティア団体が関係していること知り、とても身近な感じました。また、自然を保護する活動において、ある一部の種だけを保護するのでは意味がなく、森全体、つまり森につながる源流や川、そこに生息する生物や植物等も丸ごと保護・管理する必要があります。時にはその環境を守るために生物や植物を排除する活動も必要だと学ぶことができました。

(担当/山田)

# 2年生

## フィールドワーク



私たち2年生は、通年で組み込まれた授業「フィールドワーク」において、4回にわたり課外活動へ行ってきました。

最初の活動は、荒川での生態調査および河川敷のゴミ拾いでした。この日、各クラスから10名が「胴長」と呼ばれるゴム製の服を着用し、生物捕獲のため実際に川へ入ることになったのです。私は「楽しそう!」という思いだけで川へ入ることにしたのですが、いざ入水してみると、水圧や足元のぬかるみのせいで身動きが非常に取りづらく、すぐに汗だくになってしまいました。翌日には脚がパンパンで想像以上に大変でしたが、今では貴重な経験が出来て良かったと思います。

そうして捕獲した魚、カニ、カメ等の生物の種類と大きさを記録し、生態調査を終えました。荒川の生態系の多様性に驚きましたが、中には人間の都合で放されたと思われる外来種の存在もありました。その後、クラス全員で河川敷のゴミ拾いを行いました。花火にバーベキュー、スポーツも出来る荒川ですが、食べ物のバックやペットボトルをはじめ多くのゴミが至る所に放棄されていました。放された外来種、放棄されたゴミ。自分1人くらいは「誰かがどうにかしてくれらるだろう!」と思った1人の自分勝手な考えが、自然や生態系の破壊に繋がる可能性もあるということも誰かが意識しなければならぬ、現状に直接触れて考える機会を与えられた私たちが、少しでも多くの人に伝えなければならぬと思う1日でした。

そして残り3回の活動では、神奈川県相模原市で不耕栽培と呼ばれるお米の栽培を行いました。不耕栽培とは、農地を耕すことなく作物を栽培する方法です。初回では稲を植えました。機械に頼らず一本一本手作業で植えていくのですが、中腰前屈みの体勢のまま行うので足腰に疲れや痛みが集中するのです。初回にして作物の栽培



の大変さを、身を以て感じた日となりました。

2回目では植えた稲のまわりに茂る雑草を抜きました。一見簡単そうに思えるかもしれませんが、雑草と稲の判別が意外と難しいのです。普段大雑把で適当な私ですが、このときはやはり貴重な稲を抜かないよう慎重に見分けるがらの作業となりました。

そして最終回、いよいよ育った稲の収穫です。この日は10月頭だったので、9月の大型台風にも負けない強い稲へと生長したことに不耕栽培の力を感じました。まず稲を鎌で刈っていくのですが、足場が非常に柔らかい泥で身動きが取りづらいため、他の人との助け合いながら作業することになりました。その後、刈った稲をまとめて紐で束ね乾燥させるために木製の竿へ掛けていきます。これで全工程が終了です。

3回にわたって不耕栽培に携わり、私たちが普段コンビニやスーパーで気軽に手に取っているおにぎりやお弁当を作るために長い時間をかけて尽力する人たちがいるということがわかった今、これまで以上に、食へのありがたみを感じられることでしょう。

(担当/小橋)



# 先輩インタビュー

現場の第一線でご活躍されている環境教育学科の先輩方から貴重なコメントを頂きました!!

## 「学生である今だからできること」



ほそだ ひろみ  
細田 裕美さん  
株式会社セキチュー 勤務  
平成27年度卒

「今なさっているお仕事の内容を教えてください。」

株式会社セキチューにて接客を中心に仕事をしています。現在担当している部門が植物のため、接客以外に植物の管理等も行っています。

「今のお仕事に就こうと思ったきっかけはなんですか。」

就職活動が難航したことがきっかけです。就職活動を始めたころは環境に携わる仕事がないかと思い、職を探していましたが思うように進まなかったため、視野を広げたことから始めました。ホームセンターにしようと思っただけは二つあります。一つ目は様々な分野の商品を扱うことにやりがいを感じた事、二つ目は見ているだけでも楽しめる売り場を作ってみたくと思ったからです。

「今のお仕事のやりがいや、この仕事について良かったと思うことはありますか？」

専門知識が多く、勉強の毎日です。お客様から学ぶことも多くあります。身に付けた知識をいかに分かりやすくお客様に伝えられるかが大切なため、上手く伝わったときは楽しくなります。最近では担当部門の売り場作りを任せてもらっています。自分が作った売り場をお客様に見ていただけること、買っていただく売り上げに繋がれているということが

一番のやりがいだと思います。また、日用品から専門工具まで様々な商品を扱うため、あらゆる分野の知識が得られるのは他企業にない楽しさだと思います。――  
「反対に大変なことはありますか。」

現在担当している部門では商品の入れ替わりが早く、専門知識も必要とされるためそのシーズンに合った知識を身に付けることが一番大変です。来店されるお客様は、お店のユニフォームを着ていれば、知識があるかと無かろうと尋ねてきます。お客様の期待に応えられるようになるのは大変なことです。

「学生時代にやっておいた方が良いと思われること、また就職活動についてのアドバイスがあればお願いします。」

アルバイトやサークル活動などの経験は役に立ちます。実際にアルバイトで身に付けた技術が現在役立っています。学生だからこその経験はしておいて損はないです。また専門的な資格を取ることも大事だとは思いますが、それ以上に運転免許の取得をお勧めします。仕事に車が必要なことは多くありますが、就職してから免許を取るのは大変なことです。自分の時間が取れる学生のうちに専門的な資格以上に運転免許や簿記などの企業でも使える資格の取得をお勧めします。

就職活動は大変だと思いますが、時には息抜きも大切です。就職してからはなかなか自分の時間を取ることができません。根詰めてばかりではなく学生である今だからできることを、存分に楽しんで欲しいと思います。行き詰まった時こそ息抜きを大切にしてください。

（取材担当/望月）

## 「心を大きく動かして欲しい」



とりもと ひかるさん  
鳥本 ひかるさん  
株式会社ヨコオ 勤務  
平成27年度卒

「今なさっているお仕事の内容を教えてください。」

医療機器の開発を行っています。入社1年目から製品開発に携われる事と、作ろうとしている製品自体に魅力を感じたためです。また、大学時の卒業研究で学んだ技術が活かせる事も仕事に就く大きなきっかけとなりました。

「今のお仕事に就こうと思ったきっかけはなんですか。」

目に見えない小さなものを作っているのですが、ものが完成しているとわかった時は喜びを感じます。また、自分の作ったものが製品の一部分として使われる時、きちんと機能するかなどの緊張感も面白いです。そして、どうすればより良い結果を出せるのか、開発部全体で議論するのも面白く、やりがいがあります。

「反対に大変なことはありますか。」

研究段階のため、未知の部分が大きく、ひとつひとつ手探りで進めるところが大変です。やってみないとわからないと言っている面白さにも繋がりますが、失敗した時、なぜ失敗したのか、どうしたら上手くいくのかの考察が難しいです。

「環境教育学科の良さはどんなところにあると思いますか。卒業生の立場から思うことがあれば教えてください。」

それぞれ目指すところが同じでないところが面白いと思います。やりたい事の意思をしっかり持った子が多し、周りの環境に流されず独立していると感じます。

「環境教育学科で学んだことで、社会人になってから役に立ったことはありますか。」

私は卒業研究で学んだ技術をそのまま仕事にしているため、全てが役に立っています。学んだ事はイレギュラーなパターンですね。学んだ事に関係のない仕事に就いたとしても、レポート作成は役に立つと思います。レポートの完成度を上げるためには、まめにメモを取って結果の原因をよく考えます。メモを見直して先輩に聞かなくても仕事ができるよう心がけたり、ミスをして、なぜミスをしてしまったのかと考えることは大切な事だと思います。

「学生時代にやっておいた方が良いと思われること、また就職活動についてのアドバイスがあればお願いします。」

いろいろな経験をして欲しいです。旅行、資格取得、卒業研究、アルバイト、教育実習、遊び、恋愛、いろいろな事を全力で行って心を大きく動かして欲しいと思います。大学3年生になってからどんな仕事に就きたいか、1年間で決めるのは難しいです。卒業したら働くという事を心のどこかで持っておいて、自分がやりたい事を見つけて欲しいと思います。就活は縁なので、そんなに気を張らずに。面接や自己PRなどは友達と練習する事をお勧めします。

（取材担当/塚田）



# オーストラリア研修記

平成27年8月21日〜9月6日の期間、学生8名と引率の池田先生と共にオーストラリアにて環境・英語研修が実施されました。

内容は3回のゲストレクチャーと2回の学外活動で、たくさん自然と向き合える研修となりました。授業ではオーストラリアや環境問題について学び、学外活動ではノーストラドブローク島でサンゴ礁観察、ラミントン国立公園を見学しました。また、クイーンズランド大学の学生とプリズベンの街中を見学し交流する機会があり、2人1組のホームステイで語学もしっかりと学びました。

今回は3年の滝澤菜奈さん、1年の宮田菜里さん、佐々木舞美さんに研修を通しての感想を聞きました。

## 滝澤菜奈さん

「今回研修に行くことと思った理由はなんですか。」

旅行で海外に行くことはこれからもできるけど、ホームステイを体験できるのは今しかできないし、実際にステイすることで、その土地の文化、人柄を深く理解できると思ったからです。

「研修において勉強になったことはなんですか？」

ノーストラドブローク島に行ってコーラルウォッチをしたことです。これはオーストラリアのプリズベンに本拠を置くクイーンズランドの研究プロジェクトから発展した組織によるもの

です。そこでは、サンゴに損傷を与えずに白化現象を監視しています。コーラルウォッチの目的は、科学研究用の手段を提供するとともに、地球温暖化がもたらす壊滅的な打撃の一つであるサンゴの白化現象の実態を明らかにすることによって、温暖化に対する人々の意識を高めることです。しかし、世界的な規模でもサンゴの白化現象の傾向については、まだほとんどわかっていません。現在、サンゴの健康状態のモニタリングが行われているのは、主として科学者が定期的に訪れている少数のサンゴ礁だけなので、多くのサンゴが

必要なのです。私たちはこの活動を通して、サンゴの観察の仕方を理解しました。

「今回の研修で一番思い出に残ったことはなんですか？」

ホストファミリーと暮らしたことが一番の思い出です。私がお世話になった家庭はお父様、お母様、ご子息の3人家族でした。お父様は大学で教授をしていて、お母様は専業主婦でとても料理の上手な方でした。まず、初日に大学の通い方を教えてもらったのですが、当然全部英語であまり理解できませんでした。しかし、彼らはそのことを汲み取ってくださって、ジェスチャーで私たちが分かるまで丁寧に教えていただきました。夕食の際にはいつも会話していただけ、私たちの拙い英語を頑張って理解してくれようとしてくれま



## 「最高のホームステイでした。」

した。そして英語表現についてのアドバイスもしていただき、本当に丁寧に対応していただき、私が風邪をひいたとき、本当の親のように心配してくれたのも嬉しかったです。短い間でしたが、一緒に気球に乗りに行ったり、放課後、ドライブに連れて行ってもらったり、思い出がたくさんできました。最高のホームステイの経験ができました。

## 宮田菜里さん

「今回の研修に参加してオーストラリアの事についてたくさん学ぶことができました。日本と比べ、オーストラリアの方がはるかに環境を大切にしていることなど、実際に現地に行ったことで感じる事ができました。また、私たちのことをホームステイ先の皆さんが温かく歓迎してくれて不安だった生活も充実したものになりました。また機会があれば参加したいと思っています。研修期間中の授業で一番印象に残ったものについては、水の話が最も印象に残っています。オーストラリアのほとんどは砂漠でできている為に、オーストラリアでは水不足が発生したそうです。水は本当に貴重なもので、皿洗いや洗濯は何日かに1回のみ。湯船に浸かるといふ習慣もなく、また各家庭では水道代が一番負担になるため、シャワーは5分で済ませるなど様々な節水が行われていること。また日本とは違い水道水は飲めないということを授業

で学び、日本の水は豊富で安全だからこそもっと大切に使うべきだと思いました。」

## 佐々木舞美さん

「私は夏休みにオーストラリアに行きましたが、現地は冬でした。オーストラリアは日本の冬より暖かく、日中は半袖でも過ごせるほどでした。しかし、夜はとても寒くて体調管理が大変でした。また、授業ではオーストラリアが取り組んでいる自然保護について学び、ホームステイ先で毎日英語を使い、英語力を高める事ができました。研修を通して日本だけでなく海外がどのようにして環境問題と向き合っているのか、どのような取り組みをしているのかなど、様々な事を学び、現地の学生との交流やホストファミリーとのコミュニケーションで語学を上達させることができた、充実した研修となりました。」





# 朋 翠 会 の 魅 力 に つ い て



魅力  
その

## 1 やりたいことを カタチにできる

環境教育REPORTに載せる内容は私たち自身が記事にしたいもの、取材したいものを考え決めていきます。自分のやりたいことを最後まで責任を持って形にして、最後に環境教育REPORTとして皆さんに読んでいただくことはとても嬉しく、また、よりよいものを作ろうと身が引き締まります。

魅力  
その

## 3 少人数ならではの 強い団結力!

私たちは3年生3名、2年生3名、1年生2名、計8名で活動をしています。少人数のため、全員に責任ある仕事がまわってくるので悩むことも多々あります。そんな時は同学年や先輩、後輩に相談します。縦の繋がり、横の繋がりがあるので、気軽に話を持ちかけることができます。とても居心地の良い環境で全員が切磋琢磨しながら、環境教育REPORTを制作しています。

朋翠会はこんなに  
魅力にあふれてる!

魅力  
その

## 2 多くの人と 関わりをもてる

取材は自分たちでアポイントメントをとり、足を運んで行います。取材対象は環境教育学科の学生、卒業生、講師、企業の方など幅広く、多くの人からお話を伺うことができるので、自分たちの視野が広がります。また、多くの意見や考えにも触れることができ、刺激を受けます。

私たち朋翠会はこれからも皆さんに興味、関心を持っていただけるものを作っていきますのでどうぞよろしくお祈り致します!

## 会員情報・連絡



16号館付近の銅像  
2016年2月2日 撮影：望月 美佐恵

「環境教育REPORT」は年刊です。  
来年の春にまた皆さまの元へお届けいたします。  
◎連絡先が変更になられた方は、必ず下記までお知らせください。

☆編集委員募集☆  
「環境教育REPORT」の編集・発行に参加してみませんか。編集委員を担当して下さる方を募集しています。また、環境情報学科・環境教育学科を卒業された先輩方、環境教育の現場で現役の皆さま、ご参加をお待ちしております。担当して下さるとい方は下記までご連絡をお願いします。

### 朋翠会連絡先

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1  
東京家政大学 生活環境学研究室・吉原 富子  
TEL: 03-3961-4286  
E-mail: yosihara@tokyo-kasei.ac.jp

次号の発行は  
**2017年**  
**3月17日**です!!  
お楽しみに!!

●編集後記●「環境教育REPORT」Vol.5をお読みいただきありがとうございました。昨年とメンバーが大きく入れ替わり、これまでと違った仕上がりとなりました。ご指導・ご協力くださいました、当大学の吉原富子先生、先輩方に感謝いたします。今後ともさらに充実したレポートを目指して頑張ります。来年度の発行もお楽しみに!!

●編集委員● 3年 望月 美佐恵 佐藤 希映 塚田 千晶  
2年 小橋 那緒 石川 実生 小田部 真奈佳  
1年 山本 ゆり恵 山田 美優

